



平成31年2月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

平成30年10月10日

上場会社名 株式会社 柿安本店

上場取引所 東

コード番号 2294 URL <https://www.kakiyasuhonten.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 赤塚 保正

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 赤塚 義弘

TEL 0594-23-5500

四半期報告書提出予定日 平成30年10月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年2月期第2四半期の業績(平成30年3月1日～平成30年8月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年2月期第2四半期	21,430		938		975		880	
30年2月期第2四半期								

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年2月期第2四半期	84.06	
30年2月期第2四半期		

(注) 当社は、平成30年2月期第2四半期は連結業績を開示しておりましたが、当第2四半期より非連結での業績を開示しております。そのため、平成30年2月期第2四半期の実績及び対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	%	%
31年2月期第2四半期	18,619		13,798		74.1	
30年2月期	18,356		13,508		73.6	

(参考) 自己資本 31年2月期第2四半期 13,798百万円 30年2月期 13,508百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年2月期		0.00		55.00	55.00
31年2月期		0.00			
31年2月期(予想)				55.00	55.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年2月期の業績予想(平成30年3月1日～平成31年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	46,000		2,700		2,750		1,970		188.19

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成30年6月8日付で完全子会社である柿安グルメファーズ株式会社を吸収合併いたしました。当合併により連結子会社はなくなることから、平成31年2月期(通期)は個別決算による開示となりますが、通期業績予想の対前期増減率は、比較対象が異なるため、記載しておりません。

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年2月期2Q	12,446,700 株	30年2月期	12,446,700 株
期末自己株式数	31年2月期2Q	1,978,768 株	30年2月期	1,978,696 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年2月期2Q	10,467,995 株	30年2月期2Q	10,706,073 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の堅調な改善に支えられ、緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、依然として消費者の節約志向は続いていることから消費マインドの持続的な回復には至らず、個人消費は力強さを欠くものとなりました。また、海外に端を発する貿易摩擦の拡大が懸念される等、政治・経済情勢の不確実性は高まっており、引き続き先行き不透明な状況が続いております。

このような環境の中、当社は、肉食の充実、赤身部位等の選択肢の多様化、ローストビーフをはじめとした肉加工品の人気を受け、肉関連商品の展開強化に注力いたしました。

出退店・改装につきましては、JR岐阜駅に直結したアクティブGに精肉店を出店した他、近鉄百貨店上本町店に「柿安ダイニング」を出店する等、計29店を出店するとともに、入店先施設の改装に合わせる等4店を改装いたしました。一方、7店を退店いたしました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は21,430百万円、営業利益は938百万円、経常利益は975百万円、四半期純利益は880百万円となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(a) 精肉事業

精肉事業につきましては、『赤身小間きれ』、『赤身焼肉切り落とし』等の基幹商品を拡充するとともに、パック商品によるお買い回りのしやすさの向上等に注力いたしました。

出退店・改装につきましては、アクティブGに出店するとともに、イオンモール桑名精肉店を改装いたしました。

この結果、当事業の売上高は7,173百万円、セグメント利益は669百万円となりました。

(b) 惣菜事業

惣菜事業につきましては、人気のローストビーフの新商品『香ばしいガーリックローストビーフ』を追加、柔らかい牛バラ肉をオリジナルの甘辛ダレでさっと焼き上げた『スタミナ焼肉重』等、お肉を主役にしたスタミナ満点の肉関連アイテムの強化による活性化を図りました。

出退店・改装につきましては、近鉄百貨店上本町店に「柿安ダイニング」を出店する等、計4店を出店するとともに、入店先施設の改装に伴い阪神百貨店の2店を改装いたしました。

この結果、当事業の売上高は6,813百万円、セグメント利益は550百万円となりました。

(c) 和菓子事業

和菓子事業につきましては、人気シリーズであるフルーツ大福の夏限定『ピオーネ大福』や涼菓アイテムの『水まんじゅう（こしあん）』を投入、また歳時に応じた商品の販売強化による活性化を図りました。

出退店・改装につきましては、口福堂をはじめ計16店を出店するとともに1店を改装、3店を退店いたしました。

この結果、当事業の売上高は3,673百万円、セグメント利益は200百万円となりました。

(d) レストラン事業

レストラン事業につきましては、柿安の強みを生かした業態開発に注力いたしました。

「しゃぶしゃぶ+ビュッフェ料理」の新ブランド「柿安 Meat Buffet」をテラスモール湘南に出店、また、柿安のこだわりが詰まった親子丼をフードコート型店舗でリーズナブルにご提供する新ブランド「奇跡の親子丼」をイオンモールナゴヤドーム前に出店するとともに、前期から展開を始めた

「柿安 Meat Express」をイオンレイクタウンに出店する等、計8店を出店しました。

一方、1店を退店いたしました。

この結果、当事業の売上高は2,711百万円、セグメント利益は76百万円となりました。

(e) 食品事業

食品事業につきましては、柿安のしぐれ煮をご家庭でそのままお召し上がりいただける『牛肉しぐれ煮丼』の販売強化、また『ピリ辛豆板醤 牛肉夏しぐれ』等、季節のしぐれシリーズの展開により活性化を図りました。
この結果、当事業の売上高は1,059百万円、セグメント利益は121百万円となりました。

なお、前第2四半期累計期間は四半期連結財務諸表を作成し、四半期財務諸表を作成していないため、前年同四半期との比較は行っておりません。（以下、(2)財政状態に関する説明においても同じであります。）

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期会計期間末における資産合計は、前事業年度末に比べ263百万円増加し、18,619百万円となりました。

流動資産は83百万円増加し、10,506百万円となりました。主な要因は、売掛金の増加470百万円と現金及び預金の減少287百万円及び仕掛品の減少59百万円等であります。固定資産は180百万円増加し、8,113百万円となりました。主な要因は、差入保証金の増加81百万円及び繰延税金資産の増加52百万円並びに建物の増加41百万円等であります。

当第2四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ26百万円減少し、4,821百万円となりました。

流動負債は61百万円減少し、4,200百万円となりました。主な要因は、未払法人税等の減少189百万円等であります。固定負債は35百万円増加し、620百万円となりました。主な要因は、資産除去債務の増加47百万円等であります。

当第2四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べ289百万円増加し、13,798百万円となりました。主な要因は、利益剰余金の増加304百万円等であります。

キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、5,833百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、得られた資金は647百万円となりました。収入の主な内訳は、税引前四半期純利益1,187百万円、非資金損益項目等の調整を加減した営業取引による収入1,070百万円等に対し、支出の主な内訳は、法人税等の支払額424百万円等であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、使用した資金は795百万円となりました。収入の主な内訳は、定期預金の払戻による収入600百万円等であり、支出の主な内訳は、有形固定資産の取得による支出680百万円、定期預金の預入による支出600百万円等であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、使用した資金は622百万円となりました。支出の主な内訳は、配当金の支払額567百万円等によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成30年7月11日に発表いたしました「特別利益（抱合せ株式消滅差益）の発生並びに非連結決算への移行に伴う平成31年2月期個別業績予想に関するお知らせ」に記載しております予想から変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成30年2月28日)	当第2四半期会計期間 (平成30年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,721	6,433
売掛金	2,726	3,197
商品及び製品	336	301
仕掛品	211	152
原材料及び貯蔵品	190	184
その他	236	236
流動資産合計	10,423	10,506
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	3,111	3,152
土地	2,255	2,224
その他（純額）	738	764
有形固定資産合計	6,104	6,142
無形固定資産	224	252
投資その他の資産	1,603	1,718
固定資産合計	7,932	8,113
資産合計	18,356	18,619
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,291	1,481
未払法人税等	642	453
賞与引当金	367	373
役員賞与引当金	39	19
その他	1,921	1,872
流動負債合計	4,262	4,200
固定負債		
資産除去債務	508	555
その他	76	65
固定負債合計	585	620
負債合計	4,847	4,821

（単位：百万円）

	前事業年度 (平成30年2月28日)	当第2四半期会計期間 (平成30年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,269	1,269
資本剰余金	1,074	1,074
利益剰余金	14,685	14,989
自己株式	△3,542	△3,542
株主資本合計	13,486	13,791
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	21	7
評価・換算差額等合計	21	7
純資産合計	13,508	13,798
負債純資産合計	18,356	18,619

（2）四半期損益計算書
（第2四半期累計期間）

（単位：百万円）

	当第2四半期累計期間 （自平成30年3月1日 至平成30年8月31日）
売上高	21,430
売上原価	10,807
売上総利益	10,623
販売費及び一般管理費	9,685
営業利益	938
営業外収益	
受取利息	0
受取配当金	1
工事負担金等受入額	24
その他	15
営業外収益合計	41
営業外費用	
支払利息	0
その他	4
営業外費用合計	4
経常利益	975
特別利益	
固定資産売却益	13
抱合せ株式消滅差益	479
特別利益合計	492
特別損失	
固定資産除売却損	50
減損損失	178
その他	51
特別損失合計	279
税引前四半期純利益	1,187
法人税、住民税及び事業税	339
法人税等調整額	△31
法人税等合計	307
四半期純利益	880

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当第2四半期累計期間 (自 平成30年3月1日 至 平成30年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純利益	1,187
減価償却費	311
減損損失	178
賞与引当金の増減額(△は減少)	5
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△19
受取利息及び受取配当金	△1
支払利息	0
有形固定資産除却損	50
有形固定資産売却損益(△は益)	△13
抱合せ株式消滅差損益(△は益)	△479
売上債権の増減額(△は増加)	△335
たな卸資産の増減額(△は増加)	99
仕入債務の増減額(△は減少)	88
未払金の増減額(△は減少)	39
未払消費税等の増減額(△は減少)	△63
その他	21
小計	1,070
利息及び配当金の受取額	1
利息の支払額	△0
法人税等の支払額	△424
営業活動によるキャッシュ・フロー	647
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△600
定期預金の払戻による収入	600
有形固定資産の取得による支出	△680
有形固定資産の売却による収入	50
差入保証金の差入による支出	△60
差入保証金の回収による収入	0
その他	△106
投資活動によるキャッシュ・フロー	△795
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△50
配当金の支払額	△567
その他	△4
財務活動によるキャッシュ・フロー	△622
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△770
現金及び現金同等物の期首残高	6,121
連結子会社の合併による現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	483
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,833

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期累計期間 (自平成30年3月1日至平成30年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	7,173	6,813	3,673	2,711	1,059	21,430	—	21,430	—	21,430
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	622	10	26	13	475	1,147	—	1,147	△1,147	—
計	7,795	6,823	3,699	2,725	1,534	22,578	—	22,578	△1,147	21,430
セグメント利 益	669	550	200	76	121	1,618	—	1,618	△680	938

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等でありま
す。

2. セグメント利益の調整額△680百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△699百
万円及びその他調整額18百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属し
ない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「レストラン事業」において、店舗設備の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期累計期間において、178百万円であります。